

宗教者災害支援連絡会活動報告

(平成23 (2011) 年4 月～平成24 (2012) 年11 月)

宗教者災害支援連絡会は2011年4月1日、島薦進（東大）を代表とし、以下の11人の世話人の協議によって運営にあたってきた。同会は略称「宗援連」でも知られるようになっている。

稻場圭信（大阪大）、岡田真美子（兵庫県立大）、葛西賢太（宗教情報センター）、金子昭（天理大）、黒崎浩行（国学院大）、佐藤丈史（日本キリスト教連合会）、宍野史生（扶桑教・教派神道連合会）、高橋孝信（東大・東大仏青理事長）、戸松義晴（全日本佛教連盟事務総長 日本宗教連盟事務局長）、蓑輪頤量（東大）、本山一博（玉光神社・新宗連）、林理江子（カトリック教会）

事務局は以下をお借りしている。

〒113-0033 東京都文京区本郷3-33-5 三菱UFJ ニコス本郷ビル2F

(財)東京大学佛教青年会 E-mail: info@syuenren.opensnp.jp__

また、事務局員は以下の若手研究者が担っている。

井関大介、魚尾和瑛、日野慧運、星野壮

I. 宗援連の主旨

2011年10月付けで代表の名で公表されている主旨文を以下に付す。

3月11日の東北関東大震災（東日本大震災）はマグニチュード9.0という巨大な地震、それに続く町や村を飲み込む津波、そしてさらに原発事故と重なる重荷となって東日本の人々に降りかかりました。被害は甚大です。多方面からの支援活動が続けられていますが、今後もその継続発展が望まれるところです。

宗教界もそれぞれの仕方で被災者支援に力を注いでいます。そこで、宗教者による被災者支援の情報を提供し合い、その働きを拡充する仕組みを作ってはどうかという声が上がりました。それを受け4月1日に立ち上がったのがこの宗教者災害支援連絡会です。

宗教教団が教団組織として行う支援も、個々の宗教者グループがそれぞれに行う支援もさらに活性化していきたいものです。この宗教者災害支援連絡会は多様な試みの情

報をつきあわせ、お互いの経験から学びあう、宗教、宗派を超えた宗教者の連絡組織として、被災者や避難者の助けとなることを目指します。

当初、避難受け入れを中心にと考えてきましたが、被災地での支援の方に力点が移っています。しかし、必ずしも被災地に赴かずとも、それぞれの場で行える支援もあります。すでにそれぞれの場で進めてこられた取り組みをネットワークでつなげ、より強力にかつより柔軟にニーズに応じていこうという考えです。また、宗教界以外の方々との緊密な協力なしには、このような支援が円滑にできるはずもありません。宗教者に限らず広く情報交換を進めていきたいものです。

なお傷跡は深く、復興の道のりは容易でないことが予想されます。未曾有の災害からの復興にお互いの力を出し合って、被災者の助けとなりながらともに歩み、悲しみを力へと変えていくような支援ができますことを願っています。

時の経過に応じて、活動内容は変化してきている。当初、力点を置いていた避難受け入れは後退し、2011年秋頃からは「心のケア」へと力点が移動した。2012年の夏以降は、福島原発災害による被災者への支援活動の比重が増している。子供を中心とした保養プログラムや除染の支援などが取り上げられるようになった。また、今後来るべき災害に備える活動といったテーマも重要性を増して来ている。

II. 活動内容

以下、主要な活動について記していく。

(1) 情報交換会

ほぼ月1回のペースで参加費無料の情報交換会を開催してきた。震災支援に関わっている方々を招いて、取り組みの経験を報告していただくとともに、コーヒーブレイクや分科会などを通して出席者どうしの情報交換を図ってきた。2012年春頃までは、毎回約60~70名の方が出席していた。報告の要旨は順次、ホームページで公開している。

第1回

日時：平成23年4月24日（日）14:30~17:00

会場：（財）東京大学仏教青年会ホール

プログラム

1. 宗教者災害支援連絡会の設立経緯と趣旨

島薗進（東京大学）

2. 宗教者災害救援ネットワークとの関係

稻場圭信（大阪大学）

3. 東漸寺の場合（避難者受け入れ）

鈴木悦朗氏（千葉県松戸市浄土宗東漸寺）

4. 天理教の試み（災害救援ひのきしん隊の活動、避難者受け入れ等）
西尾典和氏（天理教信者部運営課）・金子昭氏（天理大学おやさと研究所）
5. いわき市の状況（被災寺院）
星野壮氏（大正大学大学院博士課程）
6. 仙台での協力の動き（心の相談室）
鈴木岩弓氏（東北大学）・田代志門氏（東京大学）
7. その他の報告
8. 今後の方向性
9. その他

第2回

日時：平成23年5月22日（日）13:30～17:15

会場：（財）東京大学佛教青年会ホール

プログラム

0. 黙祷
1. 経過報告

島薗進

2. 報告と話し合い

- ①鈴木岩弓氏（東北大学）：宮城県の宗教者による支援と「心の相談室」
- ②東海林良昌氏（浄土宗総合研究所研究員、宮城県塩竈市浄土宗雲上寺副住職、浄土宗青年会東北ブロック常務理事）：被災地での活動から見えてきたこと—避難・読経ボランティア・被災寺院支援

3. コーヒーブレイク

4. 分科会

①被災地での支援活動

②被災者受け入れ

③心のケア

5. 総合討議

第3回

日時：平成23年6月19日（日）15:00～19:00

会場：（財）東京大学佛教青年会ホール

プログラム

0. 黙祷
1. 報告会

- ①蓑輪顕量（東京大学）：「追悼のとき」提案
- ②谷山洋三氏（臨床スピリチュアルケア協会事務局長）：宗教者による「心のケア」のあり方について
- ③茅野俊幸氏（シャンティ国際ボランティア会専務理事）：被災地支援と宗教協力
- ④吉田律子氏（サンガ岩手代表）：岩手県における宗教者の被災地支援
- ⑤金子昭（天理大学）：宗援連シニアボランティアについて

2. 総合討議

第4回

日時：平成23年7月24日（日）15:00～18:00

会場：（財）東京大学仏教青年会ホール

プログラム

0. 黙祷

1. 報告会

①西館勲氏（岩手県神社庁長）：東日本大震災と神社

②保科和市氏（立正佼成会教務局社会貢献グループ次長）：立正佼成会の救援活動、また他教団との協働について

③稻垣博史氏（東日本大震災救援キリスト者連絡会現事務局長、牧師）・高橋和義氏（同次期事務局長、牧師）：キリスト教の被災者支援について

2. コーヒーブレイク

3. 総合討議

①避難者受け入れ

②シニアボランティア

③心のケア

④その他の報告

⑤今後の予定、その他

第5回

日時：平成23年9月11日（日）14:00～18:00

会場：（財）東京大学仏教青年会ホール

プログラム

1. 報告1西川勢二氏（真如苑東日本大震災復興支援センター責任者）：真如苑救援ボランティア（SeRV）の支援活動等の経緯と現状

2. 追悼のとき

3. 報告2林心澄氏（真言宗豊山派清水寺住職・東電原発事故被災寺院復興対策の会事務局

長）：原発事故被災寺院の現状と復興への道

4. コーヒーブレイク

5. 報告3田中元雄氏（金光教大崎教会教長・金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構代表者）：震災支援活動で見えてきたこと—金光教首都圏の場合

6. 総合討議

① 避難受け入れ

② 心のケア

③ 被災地支援

④ その他の報告

第6回

日時：平成23年11月13日（日）14:00～18:00

会場：（財）東京大学仏教青年会ホール

プログラム

1. 福山哲郎氏（前内閣官房副長官・参議院議員）：政治から見た宗教者の災害支援

2. 上川泰憲氏（四方僧伽北海道・孝勝寺副住職）：岩手県大船渡での関わり

3. ハールーン・クレイシー氏（マスジド大塚）：イスラム教徒による震災復興支援活動について

4. その他の報告・総合討議

5. 今後の予定

第7回

日時：平成24年1月9日（月・成人の日）14:00～18:00

会場：（財）東京大学仏教青年会ホール

プログラム

1. 久間泰弘氏（全国曹洞宗青年会災害復興支援部顧問兼災害復興支援部アドバイザー・福島県伊達市龍徳寺住職）：震災復興の現状と課題—全国曹洞宗青年会の取り組み

2. 吉田叡禮氏（花園大学准教授・臨済宗妙心寺派牟禮山觀音寺住職）：宗教系大学の学生による災害復興支援：花園大学と佛教者の取り組み

3. 大滝晃史氏（新日本宗教団体連合会青年会事務局長）：新宗連青年会の東日本大震災被災地支援活動—気仙沼市唐桑半島での支援活動について—

4. その他の報告・総合討議

5. 今後の予定

第8回

日時：平成24 年3 月18 日（日）14:00～18:00

会場：（財）東京大学佛教青年会ホール

プログラム

1. 黙祷

2. 篠原祥哲氏（世界宗教者平和会議WCRP）：諸宗教の連帶による復興への取り組み

3. 東日本大震災発生以後の1 年を顧みて①：赤川恵一氏（立正佼成会）、朝岡勝氏（日本同盟基督教団震災復興支援本部事務局長）、堀尾正鞠氏（龍谷大学）

4. コーヒーブレイク

5. 東日本大震災発生以後の1 年を顧みて②：魚尾和瑛氏（浄土宗・大正大学大学院）、吉水岳彦氏（ひとさじの会）、金沢豊氏（浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員）、鈴木哲司氏（熊野神社）、西川勢二氏（真如苑東日本大震災復興支援センター責任者）、林里江子氏（カトリック・CLC 被災地支援デスク FACE TO FACE）、渡辺一城氏（天理大学）

6. その他の報告・総合討議

第9回

日時：平成24 年5 月13 日（日）14:00～18:00

会場：（財）東京大学佛教青年会ホール

プログラム

1. 辻雅榮氏（金沢市寶泉寺）：仏足頂礼・高野山足湯隊～被災地における傾聴ボランティア～

2. 田中真人氏（金光教首都圏災害ボランティア支援機構）：仮設住宅の自治会はどのようにして発足したのか～金光教首都圏災害ボランティア支援機構の取り組み～

3. 北條悟氏（浄土真宗本願寺派）：京都ネット——被災された方の思いを優先した活動の継続

4. その他の報告・総合討議

5. 今後の予定

第10回

日時：平成24 年7 月23 日（月）16:00～20:00

会場：（財）東京大学佛教青年会ホール

プログラム

1. 黙祷

2. 佐々木道範氏（二本松市・真行寺）：福島県の原発被災とその支援について

3. 阪井健二氏（大阪府・土生神社宮司）：無関心と向き合う地域の神社の活動

4. その他の報告・総合討議

- ① シニアボランティアについて
- ② 福島の子供達のための保養プログラムについて
- ③ その他

5. 今後の予定

第11回

日時: 平成24年9月16日(日) 14:00~18:00

会場: (財)東京大学仏教青年会ホール

プログラム

- 1. 黙祷
- 2. 報告1太田一郎氏(真如苑) : 青梅の杜 : 保養プログラム
- 3. 報告2布山真理子氏(日本同盟基督教団) : ふくしまHOPE プロジェクト
- 4. 参加者相互の情報交換とコーヒー・おかし
- 5. 報告3馬目一浩氏(浄土宗) : ふくしまっ子スマイルキャンプ
- 6. その他の報告・総合討議
- 7. 今後の予定

第12回

日時: 平成24年10月29日(月) 16:00~19:30

会場: (財)東京大学仏教青年会ホール

プログラム

- 1. 黙祷
- 2. 報告1アニース・アハマド・ナディーム氏(日本アハマディア・ムスリム協会) : イスラームと人類愛——アハマディア・ムスリム協会の東日本大震災における支援活動
- 3. 報告2関戸堯海氏(立正大学日蓮教学研究所研究員) : 災害時帰宅ステーションとしての寺院の可能性
- 4. 参加者相互の情報交換とコーヒー・おかし
- 5. 報告3武山孝行氏(扶桑教震災復興支援対策事務所所長) : こころの復興支援を考える
- 6. その他の報告・総合討議
 - ① 宗教施設の復興についての政府との交渉経過
 - ② 対話と音楽の集い「東日本大震災とこころの平和—3.11 以降の「人間の安全保障」と宗教者—」について
 - ③ 宗教連ボランティアについて
 - ④ その他

（2）共催企画

東日本大震災における宗教者の支援活動に関わるシンポジウム等の企画を他団体と共に催した。

1. 「震災と宗教を考えるシンポジウム2011：もうひとつの生き方を探る」

主催：「震災と宗教を考えるシンポジウム2011」実行委員会

呼びかけ団体：一般社団法人サルボダヤJAPAN、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、財団法人浄土宗報恩明照会、宗教者災害支援連絡会、財団法人全国青少年教化協議会（全青協）・臨床佛教研究所（実行委員会事務局）

日時：平成23年10月10日（月・祝）13:00～17:00

会場：大本山増上寺（東京都港区芝公園）

基調講演：A・T・アリヤラトネ氏（スリランカ・サルボダヤ会代表）

パネリスト：

玄侑宗久氏（作家・政府復興構想会議委員）

杉浦正健氏（弁護士・元法務大臣）

高木慶子氏（上智大学グリーフケア研究所所長）

島薗進氏（東京大学教授、宗援連代表、実行委員長）

コーディネーター：神仁氏（全青協主幹、実行委員会事務局長）

2. 祈りと講演の集い「いのちの重さを考える3 “祈り” よりそう心」

主催：教派神道連合会

共催：宗教者災害支援連絡会

日時：平成23年12月11日（日）14:30～17:00

会場：神道大教

大教院（東京都港区西麻布）

内容：

第1部：震災・災害の慰靈と復興祈願祭

第2部：公開講演

島薗進氏（宗教者災害支援連絡会代表）

江森敬治氏（毎日新聞編集委員）

3. シンポジウム「東日本大震災における宗教者の支援の現状と展望」共同主催：財団法人国際宗教研究所、宗教者災害支援連絡会

日時：平成23年2月11日（土・祝）13:00～17:00

会場：大正大学1号館2階大会議室（東京都豊島区西巣鴨）

パネリスト：

板井正斎氏（皇學館大学准教授）：「災害・復興と神道文化—神社をめぐるエピソードから地域での役割を再考する—」

川上直哉氏（日本基督教団仙台市民教会主任担任牧師／心の相談室室長補佐）：「公共性の回復—宗教間協力の成果と展望—」

山根幹雄氏（創価学会宮城県男子部長／宮城復興プロジェクトリーダー）：「励ましの絆—創価学会の東日本大震災での取り組み—」

吉田律子氏（真宗大谷派僧侶／サンガ岩手）：「呻く悲しみの中で」

コメンテータ：岡田真美子氏（兵庫県立大学教授）

司会：蓑輪顕量氏（東京大学教授）、弓山達也氏（大正大学教授）

4. シンポジウム&コンサート「世界に広がる人々のちからのネットワーク—新たな日本社会の再生に向けて」

主催：震災復興祈念シンポジウム&コンサート実行委員会

共催：NIHU プログラム、イスラーム地域研究東京大学拠点、日本ハンガリー友好協会、ハンガリー文化センター、北海道大学GCOE「境界研究の拠点形成」、宗教者災害支援連絡会、世界宗教者平和会議（WCRP）・日本委員会、ありがとう基金（国際登録NGO）

日時：平成24年4月14日（土）14:00～18:00

会場：東京大学弥生キャンパス弥生講堂（東京都文京区弥生）

プログラム

第1部：多様な支援ネットワークの広がりと地域社会の再生

[ポスターセッション：多様な支援のネットワーク]

Nitto 会（日土文化交流会）+Kimse Yok Mu（緊急災害支援NGO「誰かいりますか？」）

KAJI（インドネシア日本同好会）

ICC（インターナショナルチャーチラブ、北見市）

宗援連（宗教者災害支援連絡会）

アジアン・ガーデン+バングラデシュ留学生

JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）

セルビア・サッカー・プロジェクト

パレスチナ子どものキャンペーン（CCP）

日本ムスリム協会

大塚モスク

[シンポジウム：新しい地域社会再生の模索]

ウグル・ユジェル氏（Nitto 会理事）

青木武信氏（千葉大学）

宮坂直樹氏（浄土宗総合研究所）

篠原祥哲氏（WCRP）

司会：島薦進氏（東京大学宗教学研究室）、阿久津正幸氏（イスラーム地域研究）

第2部 展示：農学部、食の安全と放射性物質

第3部 追悼コンサート

総合司会：家田修氏（北海道大学スラブ研究センター）

ヴェドレシュ・チャバ（ピアノ）、家田堯（ヴァイオリン）、東京芸術大学TGS 弦楽アンサンブル：「震災日本に捧ぐ」「Consolatio-なぐさめ」など、

5. 「仏教者の社会貢献を考える集い」

主催：財団法人全国青少年教化協議会（全青協）・臨床仏教研究所

協力：大正大学・宗教者災害支援連絡会

日時：平成24年9月11日（火）13:30～16:30

会場：大正大学 1号館・大会議室

パネリスト：

谷山洋三氏（東北大学准教授・ターミナルケア）

藤尾聰允氏（自死・自殺に向き合う僧侶の会副代表・自死問題）

鈴木行賢氏（天台宗観音寺住職・地域コミュニティ再生）

吉水岳彦氏（ひとさじの会事務局長・貧困問題）

コーディネーター：

神 仁氏（全青協臨床仏教研究所上席研究員・臨床仏教）

6. 対話と音楽の集い

東日本大震災とこころの平和—3.11 以降の「人間の安全保障」と宗教者

共主催：NPO 法人「人間の安全保障フォーラム」（HSF）、宗教者災害支援連絡会、東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム（HSP）

日時：平成24年11月25日（日）13:00～16:50

会場：東京大学弥生講堂一条ホール

プログラム：

第I部【シンポジウム】3.11 以降の人間の安全保障と心の平和—被災地支援を通して考える

基調講演：河野太通さん（臨済宗妙心寺派管長、全日本仏教会前会長）

パネリスト：杉谷義純さん（世界宗教者平和会議日本委員会理事長）、高木慶子さん（上智大学グリーフケア研究所所長、上智大学特任教授）、島薦進さん（宗援連代表、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

コメンテータ：山脇直司さん（HSF 理事、東京大学大学院総合文化研究科教授）

司会：蓑輪頤量さん（宗援連世話人、東京大学大学院人文社会系研究科教授）、岡田真美子さん（宗援連世話人、兵庫県立大学教授）

第II 部【被爆ピアノとヴァイオリンコンサート】

ベートーヴェン／ヴァイオリンソナタ「クロイツェル」作品47

ショパン／「別れの曲」作品10 の3

バッハ＝グノー／アヴェ・マリア

ドヴォルザーク／ロマンス作品11

復興支援ソング「花は咲く」ほか

演奏

鈴木健史（ヴァイオリン）・鈴木弘子／森田真帆（ピアノ）・吉水知草（ソプラノ）

（3）「追悼のとき」提案

宗援連では、東日本大震災によって命を落とされた方々の冥福を祈る、「追悼のとき」を毎月11日に設けることを提案している。趣旨文は以下のとおりだ。

さる3月11日に多くの方が予想もしていなかった巨大地震が東北地方の東方沖を震源として発生致しました。地震の発生後に襲った大津波により、多くの方々が罹災し、一万五千人を超える方々が命を落とされました。自然災害とはいえ、これ以上の痛ましいことはありません。

人の子として生まれれば、親の期待を一心に背負い、また幼少から将来への夢を抱き、人生に対する希望を語っていた方々もおられましょう。子や孫のため、あるいは知人、友人のために日々、務めにはげみ、心を碎いておられた方もおられましょう。そのような方たちの尊い命が、今回の大震災により、一瞬にして消え去りました。身近な方を突然に失った悲しみは、如何ばかりかと想像するに余りあります。

今回の大地震、大津波に命を落とされた方々は、誰一人としてかくも早く自分が命を落とすとは想像すらしていなかったことだと思います。将来への夢や日常の幸せを、一瞬にして断絶させられた人々の無念の思いに、私たちの心も深く悲しみを禁じ得ません。此のたびの大震災がなければ、数えきれない喜び、楽しみ、そして小さな幸せがあったのではないかと思うと、断腸の思いで胸がふさがる思いです。

しかしながら、大震災を生き延びた者たちにとって、苦しみの中に不幸にも命を落とされた方々のご冥福を祈り、その方々の魂を鎮めることは、私たちが忘れてはならない務めであると信じます。さらには、人知を超えた自然の脅威にも、思いを馳せる必要がありましょう。

このようなことに鑑み、私たちは東日本に大地震の起きた3月11日に因み、毎月11日の日に（時間は問いませんが、大地震の発生した14時46分を第一の候補といたします）、東日本大震災によって命を落とされた方々の冥福を祈る、「追悼のとき」を設けることを提案いたします。

多くの方々が、亡くなられた方々に思いを馳せ、哀悼の意を表するとともに、少しでもこのような災害の悲しみが癒され、一日も早く、被災地の復興が成し遂げられることを願ってやみません

(4) シニアボランティア

宗援連では、放射線の線量が比較的高い福島県での除染を含む支援活動を念頭に、シニアボランティアの可能性を探ってきた。その結果、下記のボランティア活動に宗援連から呼びかけ、参加をしてきた。

1□ 平成24年5月31日（木）・6月1日（金）島薦代表ほか8名

久間泰弘氏（曹洞宗青年会災害支援現地対策本部）のコーディネートにより、福島市近辺の仮設住宅で行茶、伊達市内・福島市内で除染活動に参加。この支援活動は天理教本芝大教会の協力を得た。

2□ 平成24年6月29日（金）島薦代表、稻場世話人ほか6名

全国曹洞宗青年会災害復興支援部現地支援拠点本部（福島県伊達市・成林寺）に集合し、除染作業。この支援活動は立正佼成会杉並教会の協力を得た。

3・平成24年8月14日（火）・15日（水）島薦代表ほか8名

二本松市真行寺の佐々木道範氏らのNPO法人TEAM二本松の保養のための岳温泉グラウンドの除染・草取り作業に参加。このボランティアは、世界救世教鎌倉教会の協力を得た。世界救世教鎌倉教会では、これを引き継いで9月16日、41名が同じボランティア活動を行った。

(5) ホームページ、SNS

宗援連の活動内容や次回情報交換会の案内等は、宗援連ホームページに随時掲載している。

また、メンバー招待制のSNS（ソーシャルネットワークサービス）も設けている。

宗援連ホームページURL <http://www.indranet.jp/syuenren/>

SNS 宗援連URL <http://syuenren.opensnp.jp/>

なお、福島県に住む親子のために全国の宗教者・宗教団体によって企画された「保養プログラム」の情報収集、発信に力を入れている。この情報は、宗援連が会員となっている「東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）」の「保養プログラム情報」にも転載している。